

【テーマ】

○だんご虫に触れる。

【テーマ設定理由】

○春の草花や虫に触れて楽しみ、身近な自然に興味を持つ。

【活動スケジュール】

○戸外に出て虫探しをする姿が多く見られているため、じっくり触れて感触を楽しむ機会を設ける。

【活動のために用意した素材や道具、環境の設定】

○砂場遊び用カップ

【活動内容】

○戸外に出て友達と一緒にやり取りをしながらだんご虫を探し、触れてみる。

【子どもの様子】

いつもの戸外遊びと変わらない様子で虫探しを始めた。暖かくなってから繰り返し虫探しを楽しんでいるため、だんご虫や蟻、てんとう虫などの虫がどこを探したら捕まえることができるのかということを知っていて、友達とやり取りをしながら捕まえていた。「先生！早く来て！」と子どもに呼ばれて駆け寄ると、捕まえただんご虫から小さな赤ちゃんが生まれていた。「うわあ、小さい。」「赤ちゃんはまだ真っ白だ。」「赤ちゃんだんご虫のからだ、ぷにぷにじゃない？」「絶対柔らかいよね。」等、発見したことを伝え合いながら観察し、「赤ちゃんだから見るだけにしよう！」と子ども達自ら決めて様子を見守っていた。赤ちゃんだんご虫を見守っている中で、「いつから体が黒くなるのかな？」「大人のだんご虫みたいにかたいつるつるな体になるのはいつかな？」という疑問が子どもたちの中に生まれた。「大人のだんご虫はつるつる？」と保育士が聞くと「人が触るとまるくなるからね、ビーズみたいにつるつるだよ。」「でも手を動かさないでずっと手の上にのせてると歩き出すから、そしたらこしょこしょしてるみたいにくすぐったいよね。」「足がたくさんあるからだよね。」「と」言っていた。「だんご虫の足ってどうなってるんだろうね？」と問いを投げかけると「あ、だんご虫って足何本あるんだろう？」「赤ちゃんどこから出てきたんだろう？」と新たな疑問が生まれた。「だんご虫ってさ、すぐにまるくなるから、お腹見れないんだよね。」「と一人の子どもが言うと、「そうだよね！」「だんご虫のお腹ってどこなの？」「カーブしてるところ？」「どこまでが体なの？」と子ども同士で考えてみようとする姿が見られた。



【振り返り】

日常の戸外遊びの中で虫探しを楽しむ子どもの姿が多く見られているため、今回の活動に設定したが、思いがけず赤ちゃんだんご虫の誕生を目にすることができ、とてもいい経験になった。赤ちゃんだんご虫はあまりにも小さくて直接触れることはなかったものの、大人のだんご虫と違って柔らかさそうだというイメージを膨らませることができていた。今まで何度も触れてきたことのあるだんご虫だからこそ、色や大きさの違いから考えることができたのではないかと思った。また、子ども達が赤ちゃんだんご虫と大人のだんご虫の見た目や大きさの違いに気付いたことで、体のつくりまで関心が広がった。今日の段階ではだんご虫は黒くてつるつるしていて、でも動くときくすぐったいという感想が多く聞かれたが、その感触の素であるだんご虫の体のつくりについてよく知ることによって、さらに興味関心を深めていくことができるのではないかと感じた。次回は電子黒板とカメラを使用してだんご虫の体を拡大して細部まで観察し、子どもたちと一緒に足の本数を数えたり、体の色は本当に黒なのか、お腹はどうなっているのかなどの学びに繋げていきたい。